

かながわ さとおや

2018年2月発行

発行 神奈川県里親会

藤沢市みその台 1-3

聖園子供の家 気付



「虹色インコ」N.Tくん（8歳）

☆もくじ☆

- | | |
|-------------------------|------|
| ・ 「社会的養護を必要とする子どもの今」 | 1 |
| ・ 心理士さんに子どもたちのことを聞きました。 | 2~3 |
| ・ 児童養護施設紹介 ゆりかご園 | 4 |
| 強羅暁の星 | 5 |
| ・ 地区だより | 6~10 |
| ・ 神奈川県里親会活動状況 | 11 |
| ・ 編集後記 | 11 |

社会的養護を必要とする子どもの今

神奈川県中央児童相談所所長 井上保男

国の直近の統計資料では、社会的養護を必要とする子どもは全国で約 45,000 人いるとされています。この数字は、現に児童養護施設や里親のもとで生活している子どもの数で潜在的な数を合わせるともっと多い人数になるのではないかと思います。

私が児童相談所で勤務し始めたのは 1998 年で、今から 20 年前になります。90 年代から徐々に問題となっていた児童虐待が顕著になり始めたときでした。その 2 年後に児童虐待防止法が成立・施行されました。法施行を機に虐待への認識が変わり、社会の関心も高まり、児童相談所や市町村で対応する虐待相談件数は増加の一途を辿り、現在も増加しています。

児童虐待の増加は被虐待を理由とする社会的養護を必要とする子どもを多く生み出しました。10 年前の国の資料では、全国で約 40,000 人でした。人数の増加は当然ですが、児童相談所で多くの子どもを見てみると、子どもの年齢や状態が昔に比べて大きく変化しているように感じます。

年齢について、以前は、虐待の影響を受けやすく生命に直結する幼児や小学生など年齢の低い子どもの一時保護や養育を施設や里親に多くお願いしていましたが、最近では、中・高校生など年齢の高い子どもの一時保護が非常に多くなり、児童養護施設にも高年齢の子どもの養育をお願いすることが増えています。県内には施設定員の 1/3 が高校生となっている児童養護施設もあります。高年齢の子どもが一時保護所や施設で安全、安心な生活を送ることができるようになったことは決して悪いことではありません。それまで見過ごされてきた支援が高年齢の子どもにまで行き届いてきたとも言えます。

状態の変化について一言でいえば、支援が非常に難しい子どもが増えていることです。家庭環境が安全、安心でなく、親子関係の改善が必要と児相が判断した子どもが施設や里親のもとで生活します。問題の根が深く、虐待の影響を受け続け心身とも傷ついた子どもが施設や里親のもとで生活するので、当然ながら安心できる場所の施設や里親のもとで、職員や里親を困らせるような様々な言動を出します。この言動は、子どもの視点から考えれば当然なことです。「そもそも自分は悪くない、親からの虐待等で何故、自分が家庭から離れて施設等で生活しなければならないのか」という疑問を抱きながら生活を送っている訳で、そのやり場のない怒りの矛先を職員や里親にぶつけていると考えられます。その考えは理屈では理解できますが、現実の養育、支援の場面ではそう簡単にはいきません。職員も里親も様々な子どもの言動に振り回され、日々、苦勞しているのが実態です。

国は児童虐待対策の重要な柱として、社会的養護を必要とする子どもたちの支援に関する 2 つの大きな検討報告書を出しました。平成 23 年の「社会的養護の課題と将来像」と本年 8 月の「新しい社会的養育ビジョン」です。いずれも施設養護から家庭養護への転換をうたった報告書で、後者については高い里親委託率が数値目標として示されています。里親委託を積極的に進め、社会的養護を必要とする子どもが家庭で生活できるようにする方向に異論を唱える人はいないと思いますが、子どもの支援の難しさやそれをサポートする体制を考えずに里親委託を進めることは、結果的に子どもの利益を損ね、養育する里親を追い詰めることになりかねないことに留意する必要があります。現実に照らし合わせながら、子どもの最善の利益を追求して、里親だけに子どもの養育を任せるのではなく、子どもに関係する児童相談所、施設、地域社会が一体となって社会的養護を必要とする子どもの健全な発達と権利を保障することが大切ではないかと思います。

日頃子どもの心に語りかけている心理士さんたちはどのような想いで子どもたちに接しているのでしょうか。児童相談所、児童養護施設、乳児院の心理士の方にそれぞれお話をさせていただきました。

児童養護施設の子どものこと

春光学園 心理療法担当職員 片山由季

春光学園の心理職となって9年目、様々な子どもたちと出会いましたが、今回は生い立ちの整理(ライフストーリーワーク)に話を絞って様子をお伝えしたいと思います。

施設で暮らす子どもは、驚くほど自分の背景を知りません。生年月日は知っていても、どこで・どのように生まれたのか、把握していないことがほとんどです。母子手帳を見れば…と思われるかもしれませんが、その母子手帳のない子がかなりいます(あっても全く記入がないことも)。当然、予防接種の記録等もありません。乳幼児期にどんな発達をしてきたのか、保護者が所在不明の場合は皆目わからないこともあります。むしろ乳児院で育った子どもの方が幼少期の育ちの記録や写真があるという、悲しい現実があります。

また大半の子どもが、自分の入所理由を知りません。なぜ施設にいて、いつまでここで暮らすことになるのか、何の見通しもない中で生活するのはどれほど心もとないことでしょうか。児童相談所と協力しながら、丁寧に説明する必要があります。それも一度で終わりではなく、節目ごとに伝えていくことが重要です。

良い話はなく、どれもシビアな話ばかりです。けれども子どもたちは、おとなが真摯に向かい合えば、必ず受けとめてくれます(そのプロセスを見ていると、つらい現実を嘘で蓋することは、彼らの救いにはならないと感じます)。子どもの力を信じるのが、子どもを育てることなのだと思感する日々です。



乳児院心理の仕事

ドルカスベビーホーム 心理相談員
金木 亜裕美

里親さんとお話する機会は少なく、今回ありがたい機会として、どんなことをしているのかお伝えできたらと思います。

私が接している乳幼児期の子どもたちは、自分の思いを言葉にすることはまだまだ難しいですが、自分なりに考えて動いていたり、いろいろなあり方でもって自分の中に起こる欲求や感情の変化などを表しています。本人なりに表しているその行動を手がかりに「その子を知る」ことに努めています。直接かかわりながらであったり、職員から教えてもらったりしながら、“こんな子かな? あんな子かな?”と考えています。その子を一番に理解しようとするのが担当職員でもあります。ちょっと離れた位置からその子を見つめているのが心理かな、と思います。

また、親との交流中、子どものつながりが良いものになるようにも考えています。時に、親のお話を聞いたりもしています。

一緒に生活できる期間は限られているので、乳児院の役目は託していくことでもあります。ただ、その子にとっては慣れた人や場所、生活から離れることにはなるので、感じる衝撃が少しでも少なくなるように、託す

相手に丁寧に伝えていきたいと思っています。心理としては特に児童養護施設職員とやりとりすることが多いです。

里親さんとして、子どもとの間でいろいろ思うこともあると思いますが、ぜひ、悩んでいるときには声をかけてください。心理も、その子を理解したいと思っている一人です。



里親さんと子どもたち

小田原児童相談所 児童心理司 星野幸雄

児童相談所の心理司となり、いつの間にか二十数年が経ちました。かつて担当していた子どもが成人してから、お会いしたり、手紙をいただいたりすることがあります。なかには親になって、また自身の子どもとのことで相談に見えて再会することもあります。

このたび、「子どもの傾向と特徴」というテーマで原稿のご依頼をいただき、かつて自分が担当していた、里親さんのところで生活していた多くの子どもたちや、里親さんたちとのやりとりなどが思い出されました。過ぎてみれば懐かしい思い出ですが、当時はとても悩まされ、何度も里親さんのご自宅に通ったり、児童相談所に来ていただいたりしました。

子どもたちには当然ながらそれぞれ個性があり、委託された状況も違うため、とてもひと言で、子どもにはこういう傾向がありますみたいな一般化したことは言えないなあと困惑いたしました。それでも考えてみると、子どもたちはみな、里親さんを本当の親ではないと頭で理解しながら、情緒的には我々児童相談所の職員などの他人の大人には見せないような甘えや依存、反抗を里親さんにぶつけていたように思えます（遠慮なくぶつけられること自体が大事ではありますが）。それもストレートに主張してくればわかりやすいのですが、多彩な変化球で来るので、それらを受け止める里親さんは大変なストレスなわけですね。里親さんが、言わば他人以上（時には本当の親以上）の存在だからこそその反応だと思います。いつか大人になった彼らに「里親さんってどういう存在だった？」と聞いてみたいものです。答えは人それぞれでしょうけれど、いずれも暖かい記憶であることはまちがいないでしょう。そうした記憶の数々が、どこかで人の心の支えになるのではないのでしょうか。



Tくん 8歳

神奈川県内にいくつも児童養護施設があります。それぞれに特徴があって、ユニークな試みをしているところも少なくありません。私たち里親と児童養護施設の子どもたち、職員の方々と深くおつきあいをさせていただいていますが、すべての児童養護施設をなかなか見学することができませんので、今号より紙面で順次紹介いたします。

児童養護

施設紹介

2施設紹介します！

社会福祉法人 児童養護施設 ゆりかご園

住所 神奈川県小田原市酒匂2-41-39

電話番号 0465-48-4921

児童定員 本園…45名 地域小規模グループホーム(ようらん)…6名

施設長 秋田 長二郎

理事長 秋山 正治

～ゆりかご園とは～

創設者（初代理事長）山下たけ氏が自らの所有する土地・建物を用いて、戦後間もない昭和25年に開設しました。昭和28年には社会福祉法人ゆりかご園として認可され、子どもの定員も30人から50人に変更しました。

その後、施設・設備も老朽化が著しいため創設60周年を期に施設の再整備計画を立案し、平成26年4月には子どもの本園定員を45人に変更し、同年12月に園舎の全面建て替えが終了しました。

また、施設機能の他に、家庭養育支援センターとして児童養護ネットワーク事業の情報交換事業・啓発事業（里親講座・コミュニティ保育の活動支援）、里親支援事業（相談受付、家庭訪問）等を行っています。

～理念～

子ども中心の援助を目指して ～ 一人ひとりの夢に添えて ～

児童相談所の措置により、何らかの理由で家庭で養育できない児童に生活の場を提供し、子ども中心の生活の実現と権利擁護を図りながら心身ともに健やかな成長と自立に向けての支援を行う。

ここが自慢！



国道1号線に面して黒塗りの大きな長屋門が、その奥には古い主屋があります。この建物は川辺家が、江戸後期の文政年間に脇本陣としての利用も考慮して建てたものと伝えられています。また、江戸中期の宝永4年(1707年)の富士山噴火の折に、災害復旧の役所として置かれた所と伝えられています。

毎年、勤労感謝の日に行われる酒匂ゆりかご祭り☆ バザーあり、抽選会あり、ステージ発表ありで大盛り上がり！出店もあって、広い園庭は多くの地域の方々に賑わいます。卒園生が遊びに来てくれたり、手伝いに来てくれるのが嬉しいです。



施設名 社会福祉法人 唐池学園 児童養護施設 **強羅^{あけ}暁の星園** (施設長 佐藤 健)

住所 神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1320-203

児童定員 50名定員

職員配置 施設長、事務員、統括主任、指導員、保育士、栄養士、調理員、心理士、嘱託医 その他

【里親支援専門相談員・里親担当者】 2名

平成 29 年度から里親担当者を 2 名配置しました。「社会的養護の必要な児童」を養育、支援する同じ立場の里親の方々と協力し合い、学ばせて頂きながら今後の里親事業と活動に従事していきます。

【職業指導員】 1 名

主に高校生を対象に就職に向けた技術指導や援助を行い就職先の開拓や就職後の訪問、相談支援を行う専門員です。

沿革 昭和 20 年から戦災孤児や貧困家庭の児童を保護、昭和 22 年には「白百合園孤児院」として認可されました。当初は 30 名の児童で開設しましたが、昭和 23 年には「養護施設」として定員が 60 名となり、昭和 54 年に施設名称が「白百合園」から「強羅暁の星園」と変更され、平成 12 年より定員は 50 名となりました。「暁の星」とは「人の歩む道しるべとなる聖母マリア」を表す名称として創団法人シャルトル聖パウロ会により名づけられ、平成 17 年 4 月に前法人から現在の社会福祉法人唐池学園に経営委譲し現在に至ります。綾瀬市の唐池学園やドルカスベビーホームと同じ法人です。

基本理念

誠実…自分の行動と言葉に責任を持つ子

勤勉…毎日の生活のなかで、忍耐を持って行動する子

愛徳…周りの人や物に温かい思いやりを大切にする子

施設のアピールポイント その① 野球クラブ快進撃！！

年に 1 回 8 月に行われる県下児童福祉施設対抗の野球大会がサーティーフォー保土ヶ谷球場で行われました。今年で 57 回目という歴史ある大会において男子寮野球クラブ発足から 11 年目で念願の初優勝を果たしました。年間を通した放課後と休日の練習の成果や地域野球チームに所属し技術を磨き、全員が協力や励まし支え合うことで「厳しさの中の喜びや自信」を勝ち取りました。野球を通じ人間



形成に向けた普段の生活に欠かせない挨拶・思いやりの大切さに改めて気付けた子ども達の最高の夏となりました。

施設のアピールポイント その② お風呂は温泉！！

県内児童養護施設で唯一、早雲山から温泉を引き子ども達は毎日かけ流しの熱々な湯船で身体を休めています。強羅温泉の歴史は古く、明治 21 年に早雲山からの引き湯で開発が始まり、明治 45 年ころから本格的な温泉開発が始まったそうです。なんとも贅沢なことに「普通の(温泉でない)お風呂に入りたい！」と言



う子もいます。[強羅暁の星園](#)で検索、ブログも更新中ですよ！！

地区だより

湘南・大和里親会

湘南・大和里親会は地区の活動として第30回神奈川県里親大会開催で準備に追われた一年でした。まずは県大会から振り返ってみたいと思います。

10月21日の大会当日は雨天にも関わらず、340人ほどの参加者に集まっていただき、「大切なあなただから ともに生きよう・・・希望ある未来を見つめて」をテーマに本大会を無事開催することができました。実行委員会の皆さま、地区の会員の皆さま、担当された施設や児相職員の皆さまと協力しながら、一步一步進めることができた大会だと思います。本当にありがとうございました。



この大会を開催するに当たって2年前くらいから有志が集まり、会場やテーマを模索する活動を始めました。映画上映の他に監督・プロデューサートーク、里親トークと里親センターひこばえからの里親制度の説明を加えることなど計画を進めました。その上でいくつか変更を余儀なくされた（会場の変更とか上映映画の変更等）こともありましたが担当地区として30回大会を無事開催できたことに胸を撫でおろしています。余談ですが、今回の映画「わたし、生きてていいのかな」の監督・プロデューサーとの出会いによって、逆に監督・プロデューサーが「里親活動」を知ることとなり、次回作の「こども食堂にて」では里親の活動も紹介される映画になっているようです。（エンドロールに協力団体として「神奈川県里親会」も流れると思いますのでどうぞお楽しみに）

7月には恒例の弁慶果樹園でのBBQ大会を開催し、楽しい交わりでした。ロバやヒツジのほかに乗馬用に馬が飼育され始めていて、子どもたちはその大きさに驚いていました。季節がら園内でカブト虫を見つけ、子どもばかりでなく大人も大興奮で走り回り、西瓜割りのために皆を集わせるのに役員さんが苦勞したほどです、写真では西瓜割が始まっていますがカブト虫に夢中でまだ集まってない家族も？ いつも網と虫籠を持参してトンボや蝶を追いかけてますが今回は虫籠にカブト虫が入り、食べたあとの西瓜の皮も入りました。お父さんたちが奮闘したBBQをお腹いっぱい食べ、西瓜の皮を恐る恐るロバや馬の傍に食べさせに行く子どもたちの体験は楽しい思い出になったことと思います。



湘南・大和里親会では1月に江ノ島ボウルで「ボウリング大会」、2月に研修会「考えて見ませんか子どもの権利」と題して子どもの権利について考える研修会を開催予定です。

今回県大会のチラシを担当してくださった里親さんから『プロボノ (Pro bono)』という言葉をお教えました。意味は『各分野の専門家が、持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動』だそうです。私たちもその精神を生かし、持っている力を少しずつ出し合い協働することで里親同士の関係も築け、子どもを養育する上でとても役に立つのではないのでしょうか。湘南・大和里親会は里親サロン、研修会、レクリエーション等での交流を深める中で頑張っていこうと思っています。

県央里親会（すこやか会）



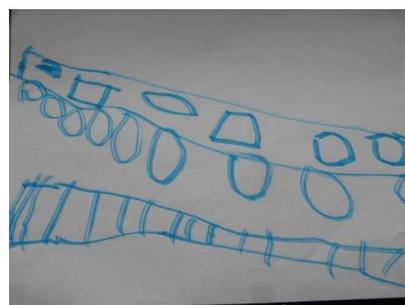
県央のすこやか会 年間スケジュール

- ① 総会
- ② 夏季レクリエーション
- ③ 唐池学園祭でバザーへの出店
- ④ 冬の宿泊研修

上記4つをメインにし、その他で里親相談員さんの企画によるサロンが年に4、5回ほどあります。ここ数年はみかん狩りの企画もあり楽しみが増しました。

総会では会員ほとんどの参加があるので、皆さんの里子さんの成長を見られる楽しい機会になり、夏季レクと冬の宿泊研修では厚木児童相談所職員さんや、児童養護施設 唐池学園、ドルカスベビーホーム、成光学園の職員の皆さんも参加して下さりとても賑やかに過ごしています。唐池学園のバザー前は会員による持ち寄りの物品を所狭しと広げながらワイワイと値段付けをして、昼食を挟んで午後はサロンが開かれます。

サロンでは、内容のテーマを決めずに各自が近況報告をしながら「今の悩み」を話すことが多いので、それぞれの里子さんの年齢により話は多岐に渡るのでも里子さんとは会わずとも成長を感じたり、あの子にそんなことが！と驚くこともあります。サロンに参加していると思うことは、皆さんが気負いなく話しているということです。子どもの悩み、学校のこと、近所のこと、家庭のこと、本当にざっくばらんに話しています。それに対し真剣に伝えてくれる人達がいて毎回本当にいい雰囲気です。初めてサロンに参加される新しい里親さんがその雰囲気に引き込まれている姿を見ると、すこやか会のサロンの良さを感じます。また、新しい里親さんが増えると未委託の里親さん向けのサロンを、新規で委託を受けた里親さんがいると、その方向けのサロンをと、相談員さん達がいつも臨機応変にサロンを開いて下さるので、少人数でより話がしやすい場が出来るのもありがたいことです。対話により関係も深まり次に会った時への会話にも繋がることで、会員の新旧に関係なく「すこやか会」に慣れ親しむことが出来ていると感じます。



ボク鹿を見に行ったよ



西湘なでしこ会



平成 29 年度 西湘なでしこ会 一年間の主な活動

里親 11 組の小さな里親会の今年を振り返って見ました。

4 月 総会



5 月 小田原市子育て支援フェスティバル

子育て中の親子や子育てを支援する団体が集まる中で、かざぐるま作りを通して里親啓発をしました。当日は、5,000 人の来場者でにぎわいました。



8 月 こども料理教室「キャラ弁を作ろう」



里母が講師となって、リラックマのキャラ弁と、ホットケーキミックスを使用したクッキー、炊飯器で作るパンケーキにチャレンジしました。オブラートに描いた思い思いの絵を薄焼き卵に貼って布団の出来上がり！おとなも子どもも楽しめました。

9 月 一泊研修会 「意外と知らない施設で暮らす子どもたちのこと」

西湘地区の 4 施設（ゆりかご園・城山学園・強羅暁の星園・箱根恵明学園）の職員、小田原児童相談所職員と里親でグループディスカッション。それぞれ現状を確認することで新たな気づきがあったり、お互い情報交換することができ、有意義なひと時でした。また、夜はホテルでの懇親会、宿泊とさらに親睦を深めることができました。



12 月 施設と里親交流事業 「みんなであそぼう」

今年も富士フィルムさんの体育館をお借りして 4 ヶ所の児童養護施設のお子さんと職員、小田原児童相談所職員、賛助会員、里親子総勢 50 人でミニ運動会を楽しみました。大人と子どもがペアを組み、グループごとに競ったり、みんなで思いっきり笑い、体を動かしました。サンタさんからプレゼントをいただき、お弁当を食べて、「来年もまた遊ぼうね！」



2018 年 1 月 なでしこサロン新年会「顔ヨガ」

顔ヨガインストラクターを招いての「顔ヨガ」。表情筋を鍛え、しわたるみを予防し、素敵な里母になれたかな？



※来年度より西湘なでしこ会の事務局が小田原児童相談所からゆりかご園に変更になります。

あおぞら里親会

あおぞら里親会は、現在幼児の委託が多く、とてもにぎやかです。

納涼会に参加して

A. S

7月29日(土) 大磯海岸、西湘バイパス高架下の海の家「さゆり」にて、あおぞら里親会、夏季恒例のレクリエーションが行われました。今回は“大磯花火大会観覧”を兼ねた“納涼会”ということで、とても楽しみにしていました。

当日の天候は曇りと良い天気とは言えませんでした。日差しもそんなに強くなかったので、過ごしやすい天候でした。海の方は少し波が高く荒れていて、一見、子どもと海に入るのをためらってしまいそうな感じでしたが、波という自然のちからというものを実感できました。納涼会中には、スイカ割りが行われ、子どもたちが「やりたい！やிரりたい！」と群がっているのを見て、あおぞら里親会の子どもたちはとても積極的な子が多いなと思いました。スイカは、さすがに小さい子どもたちには割ることができませんでしたが、みんなでおいしくスイカを食べることができました。日が暮れ始めた頃には“あおぞら里親会会長によるウクレレの生演奏”付きで、子どもたちと一緒にみんなで歌を歌い楽しく過ごさせてもらいました。夜には大磯花火大会を里親会のみなさんと観覧することができ、とても良い思い出を作ることができました。

久しぶりに会った里親のみなさんとの再会では、里子と楽しく過ごされている雰囲気伝わり、とても良かったです。この納涼会に参加させてもらい、家庭だけでここまでのことを体験させてあげることは、むずかしいかなと思うような貴重な体験をすることができました。

クリスマス会

今年度は二宮町との共催で、二宮町の職員さんがサンタクロースに扮して、子ども達を喜ばせてくださりました。里親支援機関の皆さんも工作の準備やケーキのデコレーションなど色々と、ありがとうございました。



鎌倉三浦地域里親会（鎌三わか芽会）

わか芽会では行事や様々なサロン、研修会などの活動がありますが、その中でも交流の大切な場として夏季と冬季のレクリエーションが今年もにぎやかに開催され親睦を深めました。

夏季のレクリエーションは、9月の初めに森山神社の会館を貸し切りにして夏祭りを楽しみました。子どもが喜ぶ縁日がずらりと並び、ミニボーリングやお菓子釣りゲームにボールすくいなど、子ども達は大喜びではしゃいでいました。お昼をテーブルを囲みながら、わいわいいただいた後に里父さんたちが振舞ってくれたかき氷を美味しく味わいました。

すいか割りでは、会員さんの畑から大きなすいかが提供され、皆からの大声援をうけて子ども達がカー杯すいか目掛けて棒をたたく姿が、微笑ましい光景でした。



恒例のわか芽会クリスマス会が12月に開かれました。

広い旧家の一軒家でのアットホームなクリスマスパーティーは毎年のことながら、心あたたまる嬉しいイベントです。

クリスマスの歌を皆で合唱し、クイズゲームで大いに盛り上がり、子どもはプレゼントをもらってにこにこ顔です。大人たちはなごやかに話しに花が咲きました。そしてピアノの部屋に移り、里親さんによる今年も素敵なクリスマスライブが始まると、一同ピアノの演奏と歌声に楽しませてもらいました。子どもたちは広々とした庭で、自然と集まって元気に走り回ります。そんな様子や子ども達の成長を見守れることが一番の楽しみだなと感じます。

子ども達も行事を通してずっと見守られていることを感じてくれればと思います。一緒に仲良くすくすく育ってほしいと願います。

どちらのレクリエーションもレク係りが準備を重ね、役員さんや児童相談所、児童養護施設の職員の方々の協力のお陰でいつも盛大に行われています。

わか芽会は支えあう気持ちで、そうした雰囲気を作って和やかな会になっていることと思います。

- 4月29日 総会
- 5月14日 初めましてサロン
- 7月6日 ランチサロン
- 9月10日 夏レク 森山神社夏祭り
- 10月5日 赤い羽根募金街頭活動
- 11月2日 サロン(鎌三村岡保健師)
- 12月7日 サロン(聖園ベビー林さん)
- 12月16日 クリスマス会
- 1月27日 公開研修会(櫻井奈津子講師)

平成29年度の主な活動です！
このほか理事会を年4回開催します。



平成 29 年度 神奈川県里親会活動状況

- <会議> 理事会（全 3 回）、評議員会（1 回）、会長会議（全 3 回）
相談員会合（1 回）、広報編集委員会（全 3 回）
神奈川県里親大会実行委員会（全 3 回）・関東ブロック代表者会議（全 3 回）
- <大会> 関東ブロック大会 埼玉県さいたま市（7/1）
全国里母の会 山口県山口市（8/26、27）
全国里親大会 京都府京都市（9/30、10/1）
神奈川県里親大会（10/21）
- <式典> 白十字百周年記念式典 白十字林間学校（11/23）
- <広報誌> 「かながわさとおや」 第 112（9 月）、113 号（H30、2 月）発行
- <研修> シンポジウム 「新ビジョンと県里の役割」（H30、2/24）

ぜひご覧ください！

神奈川県里親会ホームページ開設！

HP アドレス <http://kanagawa-satooya.jp>

これからの里親会の在り方について知恵を貸してください！

神奈川県里親会は何をするの、何ができるの、何をすべきなの？ と考えています。県大会は会員の協力で素晴らしいものができあがりませんが、あまりにも会員の負担が大き過ぎます。会議や研修への参加は保育がなければ参加できない、里父、里母のどちらかが参加すればどちらかが子どもと留守番になります。「新ビジョン」は発表されても本当に里親は増やせるのかなど、悩みは尽きません。

そこで、会の組織や規約の見直し、事務局のありかた、県大会の見直しの検討を始めました。ご意見を募集中です。

第 30 回神奈川県里親大会の報告

湘南・大和里親会会長 小島晴美

平成 29 年 10 月 21 日（土）藤沢市湘南台文化センター・市民シアターに於いて、第 30 回神奈川県里親大会が開催されました。児童虐待と社会的養護を取り扱った映画「わたし、生きていいのかな」の映画上映、監督・製作者のお話、里親トーク、里親制度説明と盛り沢山の内容でした。社会的養護を必要とする子どもたちの為に寄り添い続ける大人がいること、何よりもあなたの存在そのものが大切であることなど里親の思いを伝えることが出来ました。大会開催にあたり、ご協力頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

編集後記 今回より児童養護施設の紹介をしています。そこで暮らす子どもたちの様子が垣間見え、子どもたちを大切にしている職員の方たちの気持ちが映っています。そして、地区だよりについても、地区ごとの活動や様子が伝わるような掲載になっています。児童養護施設ごと、地区里親会ごとにそれぞれが自由な形で表記しており、さらに神奈川県内の活動が伝わる会報となりました。